

化学療法(抗がん剤治療)をされる患者様とご家族さまへ

今回使用する薬剤()で引き起こされる可能性のある副作用は以下の通りです。

- 一過性の食欲不振
- 投与後2～5日後に嘔吐、下痢、血便など。
- 投与後5～10日後に免疫力低下(白血球や血小板が減少)
- 投与後7～21日後に免疫力低下(白血球や血小板が減少)
- 血管外(皮下)に薬剤が漏出した際の周辺組織の壊死
- 薬剤へのアレルギー反応(投与直後に発生)
- 蓄積性心臓毒性(心臓の収縮力の低下)
- 出血性膀胱炎(血尿)
- 一過性の脱毛や色素沈着(回数を重ねるごとに皮膚が黒っぽくなること)
- 肝酵素値の上昇
- 腎臓の機能低下
- その他()

これらの症状が重なることで敗血症になる可能性が高く、危険な状態になることがあります。

※上記以外にも、予期できない副作用が発現する場合がございます。

おうちでの注意点

- ◆ 投与後48時間は**便や尿に直接触れないでください**。処理をする際は手袋を着用してください。
- ◆ 内服の抗がん剤が処方された場合、直接手で触らず**手袋を着用の上投薬**してください。使用した手袋は薬に触れた面に注意しながら廃棄してください。
- ◆ 投与後数日は普段より食欲が低下することがあります。その際におやつ等中心の生活になるとお腹を壊したり嘔吐が見られることがありますので、なるべくいつもの食事を中心に与えてください。
- ◆ 下記の症状が認められた場合は当院にご連絡ください。
 - 元気・食欲の極端な低下
 - 1日に3回以上の嘔吐、水を飲んで吐く状態
 - 水のような下痢や血便
 - 血尿
 - 安静時の体温が36.5℃以下、39.2℃以上、あるいは平常時より1.0℃高い場合
 - 安静時の心拍数が平常時と比較して30回/分程多い場合
 - 呼吸が早くて落ち着かない場合

★呼吸数の測り方

- ①タイマーを用意し、15秒でセットしておきます。
 - ②なるべく安静時(眠っている時がおススメです)に測定をします。
 - ③胸やお腹を観察し、分かりやすい所が見つかったらタイマーをスタート。
 - ④吸って吐いてを1回としてカウントしてください。
 - ⑤15秒での回数を4倍にすると1分間の測定回数と大体同じになります。
- ※通常の呼吸数は小型犬では30回/分以下、大型犬では15回/分程度です。



★心拍数の測り方

- ①タイマーを用意し、15秒でセットしておきます。
 - ②なるべく安静時に測定をします。
 - ③足の付け根の内側(内股)に指をあてると脈圧を感じられる部分があります→
 - ④タイマーをスタートし、回数をカウントします。
 - ⑤15秒での回数を4倍にすると1分間の測定回数と大体同じになります。
- ※胸のあたりに触れて心拍動でカウントしてもOK!



